

【戯曲版】俺だけが転生しない密室



弦楽器イルカ



目次

プロローグ 1

プロローグ

ここから登場する20代中頃の役者たちは、街を歩いても目立たないくらいの風貌で、どこにでも売つていそうな私服を着ている。それぞれの役柄の特徴を少しだけ意識したワンポイント程度のいでたちで、役柄の特徴が風貌に出過ぎないようにする。

舞台上には、奥に段差があり、ロッキングチェアが置かれている。

ビクトリアンスタイル風の本棚や机や家具が少し置かれており、舞台上部に設置されたスクリーンには、回っているシーリングファンの動画が映写されている。（スクリーンは必要だが、それ以外のセットはなくとも成り立つ）

上手から、男（魔王）が一人、下手に向かって歩いてくる。手には、「地獄の門（模型かパネル）」を持っており、舞台中央で立ち止まり、それを観客に向かって置く。

舞台上部のスクリーンに、置いた物の画像と黒地に白文字が映写される。

文字『地獄の門』

男は観客に対して特に視線も合わさず、そのまま下手に向かって歩き去っていく。

続いて、上手から男（ヒーロー）が一人、同じように下手に向かって歩いてくる。手には、「クマ（ぬいぐるみ）」を持っており、舞台中央で立ち止まり、それを観客に向かって置く。かわりに「地獄の門」を持ち去る。

スクリーンに置いた物の画像と文字が映写される。

文字『ケマ』

男は観客に対して特に視線も合わさず、そのまま下手に向かって歩き去っていく。

続けて同じやり方で、役者たちが一人ずつ、上手から何かを持つて、舞台中央の物と交換してから、下手に歩き去っていく。

女（少女）が、「一輪のガーベラのつぼみの鉢植え（模型）」を持って現れ、「ケマ」と交換し、歩き去っていく。スクリーンに画像と文字。

文字『花』

男（道化師）が、「岩のような物（模型）」を持って現れ、「花」と交換し、歩き去っていく。スクリーンに画像と文字。

文字『岩』

男（宇宙生物）が、「彫刻のついたペーパーナイフ（模型）」を持って現れ、「岩」と交換し、歩き去っていく。スクリーンに画像と文字。

文字『彫刻のついたペーパーナイフ』

男（神）が、「一本足で綱渡りするヒモ状の物（模型かパネル）」を持って現れ、「彫刻のついたペーパーナイフ」と交換し、歩き去っていく。スクリーンに画像と文字。

文字『キネシン』

女（細胞）が、「白いマウスにネズミの耳が付いた物（模型）」を持って現れ、「キネシン」と交換し、歩き去っていく。スクリーンに画像と文字。

文字『マウス』

女（A I）が、「高貴な扇子（模型）」を持って現れ、「マウス」と交換し、歩き去っていく。スクリーンに画像と文字。

文字『扇子』

女（第三王女）が、「白地に赤い水玉のカメレオン（ぬいぐるみ）」を持って現れ、「扇子」と交換し、歩き去っていく。スクリーンに画像と文字。

文字『カメレオン』

続いて、上手から男（作家）が一人、下手に向かって歩いてくる。手には、何も持っていない。舞台中央で立ち止まり、観客に向かって笑顔でお辞儀。

そこで、床の上のカメレオンに気づき、しばらく首をかしげて、じっと見つめている。

スクリーンに文字。

文字「なんでこんなところにゴミが落ちているのだろう？」

作家は笑顔で軽くうなづくと、カメレオンを勢いよく蹴っ飛ばし、カメレオンは下手に消える。

作家はすっきりとした表情で、改めて観客に語り始める。

作家「ようこそ。戯曲版、俺だけが転生しない密室へ。上演に先立ちまして、この戯曲について少し説明をさせてください。

この舞台は、小説版、俺だけが転生しない密室を戯曲化したものです。

もともとの小説版は、黙説でしか体験できない純文学エンターテイメントとなつております、もし少しでもご興味を持った方は、小説版を先に体験されることをおススメいたします」

ここで、上手、下手から先ほどの役者たち9名が椅子を手に持つて現れ、舞台中央に立つ作家の後ろを半円状に囲むようにして、思い思いの場所に座っていく。

作家「もちろんこの戯曲版も、違う角度からの面白さを体験いただけるようになつております。小説版を楽しんで読まれた方であれば、二度おいしく味わえるように。

とは言え、この戯曲を生身の役者が演じる予定は全くございません。つまり、あなたの脳内に浮かんでは消える幻の舞台こそ、この世で上演される唯一の密室となるでしょう。

どうかためらわずに思つ存分、脳内で妄想の舞台をくり広げていただければ幸いです。

それでは、ごゆっくりお楽しみください。戯曲版、俺だけが転生しない密室、開演です」

下手から、第三王女、A I、細胞、神、宇宙生物、道化師、少女、ヒーロー、魔王の順に座り終える。ヒーローがみんなに向かって話しかける。

ヒーロー「…じゃ、誰から始めますか？」

第三王女「まずは、このフルーツバスケットを提案した、あなたから」

第三王女が、中央で観客に向かって立つ作家に話しかける。背後からの声に驚いて、後ろをゆっくり振り向く作家。観客に背を向けた状態で、観客からの目線と同じく、自分を見つめる9名の役者と対峙する。

作家「それじゃ、その。…実は自分は、異世界からの転生者だよーつ、つて人」

9名の役者が、何かにつかれたようにすくっと立ち上がる。驚きで一步後ずさり、両腕で自分を抱いて立ち尽くす作家。動かない作家と逆に、驚いて動き出す9名の役者たち。

道化師「え！ ウソ！」

ヒーロー「マジで？ 僕だけじゃなくて？」

細胞「みんな、そうなの？」

魔王「まさか、俺だけだと思ってたのに……」

暗転。スクリーンに大きく文字。

文字『俺だけが転生しない密室』

大音量で音楽がかかる。NINEOKMAI 『?』
スクリーンに大きく文字。

文字「1. はじまりは戸締り」

つづく

【戯曲版】俺だけが転生しない密室

著 者 弦楽器イルカ

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
